

ベストクラス選定理由書

作成者：浅海真弓，江口真優，渡部峻，吉田晴彦，沼田英佑

科目名称 子ども理解と学級経営の心理学（担当教員名：秋 光 恵 子）	
課 程：大学院（修士）	開講時期：後期
授業形態：講	授業規模：30人以上
インタビュー対象教員名：秋 光 恵 子 （実施日時：平成30年7月25日； 実施場所：附属図書館会議室）	
インタビュー対象受講者名：松原功 黒川さゆり 川口明子 （実施日時：平成30年7月25日； 実施場所：附属図書館会議室）	
選定理由 <p>この授業は、現職教員は学校に戻った際に、ストレート学生は学校現場に出る際に、学級経営や子ども理解に、心理学的理解を持ってあたるのが大きい助けになる、という思いで授業設計をしている。例えば、人は自分自身の人を見る癖、フィルターを通して人を見ている。その偏りを理解することで、人との関わりを持つ際、自分がどのように対応すれば良いのかが分かる。知識を現場に生かすことのできる実践的な授業である。</p> <p>受講者による授業評価の自由記述欄の記述量が多く、受講者の中に学びとして残ったものの豊富さが現れていた。毎回の授業で感想の提出を行い、授業の冒頭で紹介し全体で共有する。個人の問題意識が全体に共有され、授業の中で解決される。ここでの感想の共有方法にも工夫がみられる。感想一覧としてペーパー化するのではなく、口頭で共有する。「顔の見えるメッセージ」として伝えることで、受講生との対話的な機会と捉えている。この感想を書く時間を「自分の中での対話」と位置づけている。受講者の中には、自分の抱える悩みを相談するなど、受講者にとって有意義な時間になっていると言う。また、受講者の声を聴く機会を持つことで新たな視点や問題意識を持つことが出来る。双方向の学びが実現されている。</p> <p>具体的なデータや数値を提示しながら授業を進めていく。根拠を明確にすることで裏付けのしっかりとした理論を伝えることが出来る。同時に、心理学に関する知識が乏しい学生でも学習に参加することが出来る。データや数値を重視する心理学と言う学問の特徴を効果的に授業に生かすことが出来ている。</p> <p>受講生へのインタビューからも、「自分の中での対話」としての感想について、「学校での経験だけでなく、子育てで感じた苦悩や悩みについて考える時間になった。」と、有意義な時間であったことがわかる。また、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえながらの講義で、現場をイメージしながら自分自身の経験を振り返りながら受講することが出来た。学級経営に生かすことが出来る視点が多く身についたので自分の学級経営を反省しながら改善していきたいという声が聞かれ、現場に生かすことのできる実践的な授業であることが分かった。</p> <p>本授業を、感想や個人の問題意識を授業全体で共有していること、授業評価の点数、自由記述量、インタビュー内容から、ベストクラス候補に推薦する。</p>	